

年を経し視野いっぱいの花万朶

福島県の三春滝桜は、岐阜県の根尾谷淡墨桜、山梨県の山高神代桜と共に大正十一年国の天然記念物の指定を受け、日本三大桜と呼ばれています。樹齡は千年以上といわれ、樹高は十三・五米、根回りは十一米、枝張りは東西に二十五米、南北に二十米の巨木で、四方に伸びた太い枝に真紅の小さな花を無数に咲かせ、その様がまさに水が滝のように流れ落ちるように見える事から、滝桜と呼ばれるようになったと言われているようです。

花ふぶき廃線上のデゴイチに

三春滝桜の後熱塩温泉に泊まり翌日、蔵とラーメンの街喜多方の枝垂れ桜の並木道を散策しました。戦前熱塩近辺で産出のマンガンや金、銀、石膏など戦争の為の物資輸送に喜多方から熱塩（次の村落が日中）まで轆かれた日中線も、戦後の需要減の為廃線、今は喜多方から約三キロほどが遊歩道として整備されて、春には約千本のしだれ桜が道の両側に咲き乱れ、途中には当時の勇姿を思わせるSLが展示されていました。SLに降りかかる花ふぶき、時代の流れの厳しさに一抹の哀れを感じるのです。

